

2022 年度 卒業論文

板橋区の合計特殊出生率を
維持するためには

経営学部	経営学科
学籍番号	19161156
氏名	釜崎玲

目次

1. はじめに
 - 1 - 1 本研究の概要
 - 1 - 2 本研究の動機と目的
 - 1 - 3 板橋区の現状
2. 研究方法
 - 2 - 1 研究の手順
 - 2 - 2 研究対象の選定
 - 2 - 3 分析手法
3. 調査結果
4. 課題
5. まとめ
6. 参考文献

1. はじめに

1-1 本研究の概要

本研究では、板橋区の合計特殊出生率が低下していることを受け、板橋区に近い都市ではどのように対策しているのかを調べていく。近隣の都市で板橋区と合計特殊出生率の推移が似ている都市を2つ、異なる都市を2つ選定し、それぞれの子育て支援や対策を比較し板橋区に活かすことのできる対策がないか検討する研究である。

1-2 本研究の動機と目的

本研究の動機として、私が幼い頃から住み続けている板橋区に活気がなくなったと感じたことがきっかけである。特に、実家から近い高島平地域の団地に住む人が少なくなり、商店街で閉店している店をよく見かけるようになったことや近隣の小学校が統廃合していると聞いたことも大きく影響している。幼い頃から住んでいる地元にも少しでも活気を取り戻すことができないかと考えたことが本研究を始めた経緯である。

本研究では、板橋区とその周辺の都市の合計特殊出生率をはじめ、各都市の平均年齢や幼稚園・保育園の数、政策などを中心に比較し、板橋区の合計特殊出生率を横ばいにしていくにはどうすればよいのか検討することが目的である。

1-3 板橋区の現状

近年、新型コロナウイルスの蔓延により、日本の合計特殊出生率は厚生労働省によると、2021年に過去最低の1.30を記録した。板橋区も同様に、2016年から2021年にかけて合計特殊出生率は低下の一途をたどっている。さらに、東京都福祉保健局のデータでは、板橋区は東京都23区内で比較しても2020年は23区の合計特殊出生率の平均が1.12に対し、板橋区は1.03と17番目に位置しており、合計特殊出生率が低い東京都の中でも少子化の懸念が非常に高い地域である。そこで、板橋区は2019年に「板橋区人口ビジョン」を作成した。その中で、板橋区の人口の増加の課題について以下のように触れている。大学進学や就職を機に転入する若年層がいる一方で、10歳未満、30歳代は転出超過となっており、子育て世帯が区外へ転出しているものと考えられる。さらに、住宅地別では、特別区への転出入数はほぼ同数であるのに対し、埼玉県では近隣都市を中心に転出超

過となっている。¹このように、「板橋区人口ビジョン」では、板橋区の課題として、23区の特設区への対策ではなく、埼玉県への子育て世帯の転出超過を食い止めることが課題だと述べられている。

2. 研究方法

2-1 研究の手順

本研究の手順として、以下の通りに進めていく。

1. 板橋区の近隣都市の出生率の年別推移を調査する
2. 板橋区の合計特殊出生率の推移と似ている都市を2つ、異なる都市を2つ選定する
3. それぞれの都市の子育て支援や対策・政策を調査し、特徴がないか検討する
4. 板橋区で参考になる子育て支援や政策を推考する

2-2 研究対象の選定

板橋区の近隣の都市として、1-3板橋区の現状でも取り上げたように板橋区の合計特殊出生率の低下、さらに人口の社会増減を最小限にし、増加させるためには板橋区から埼玉県への転出超過が課題だと感じた。そのため、板橋区から近い埼玉県の都市を12個候補に挙げることにした。



<候補12都市>
朝霞市、川口市、
川越市、越谷市、
さいたま市、志木市、
草加市、戸田市、
新座市、富士見市、
ふじみ野市、八潮市、
和光市、蕨市
(図1：地図²)

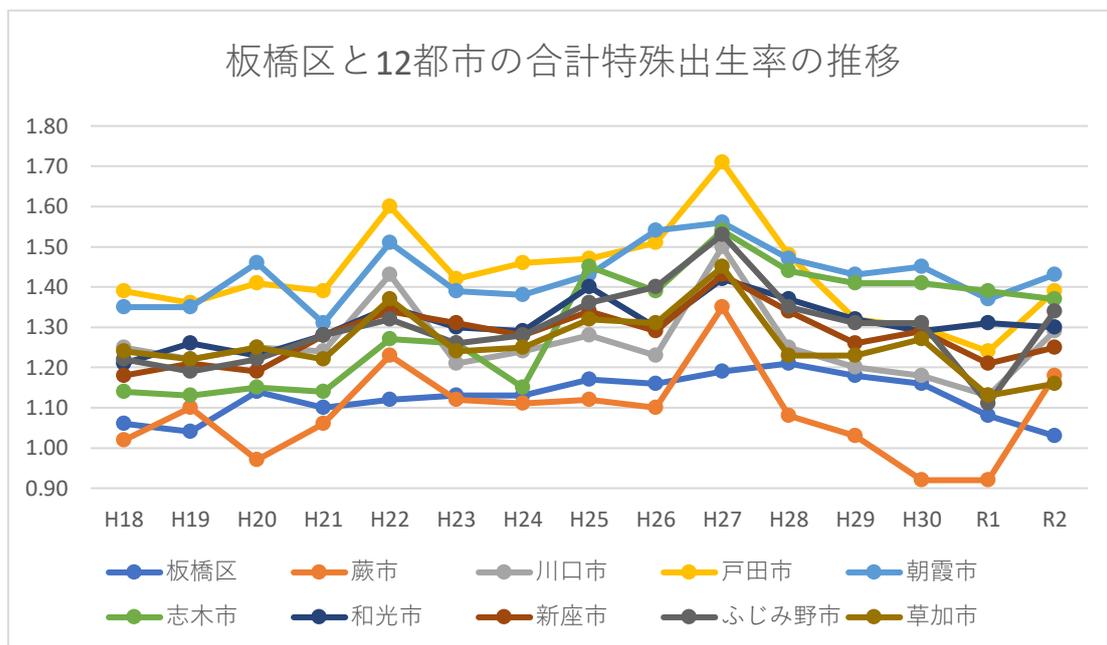
¹ [板橋区人口ビジョン_2019.pdf](https://www.city.itabashi.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/007/138/attach_95782_1.pdf) :

https://www.city.itabashi.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/007/138/attach_95782_1.pdf

² [47都道府県の地図 埼玉県の地図](https://uub.jp/map/saitama/) :

<https://uub.jp/map/saitama/>

これら 12 都市の中から、2020 年の板橋区の人口密度である、18,104 人/km²³に近い 8 つの都市を合計特殊出生率の推移で比較し、板橋区と似ている都市 2 つと異なる都市を 2 つ選んでいく。8 つの都市はいずれも人口密度が 7,000 人/km²を超えている都市である。さらに、計 4 都市を選定するために、それぞれ 2006 年から 2020 年までの計 15 年分の合計特殊出生率の推移のデータをグラフにした。

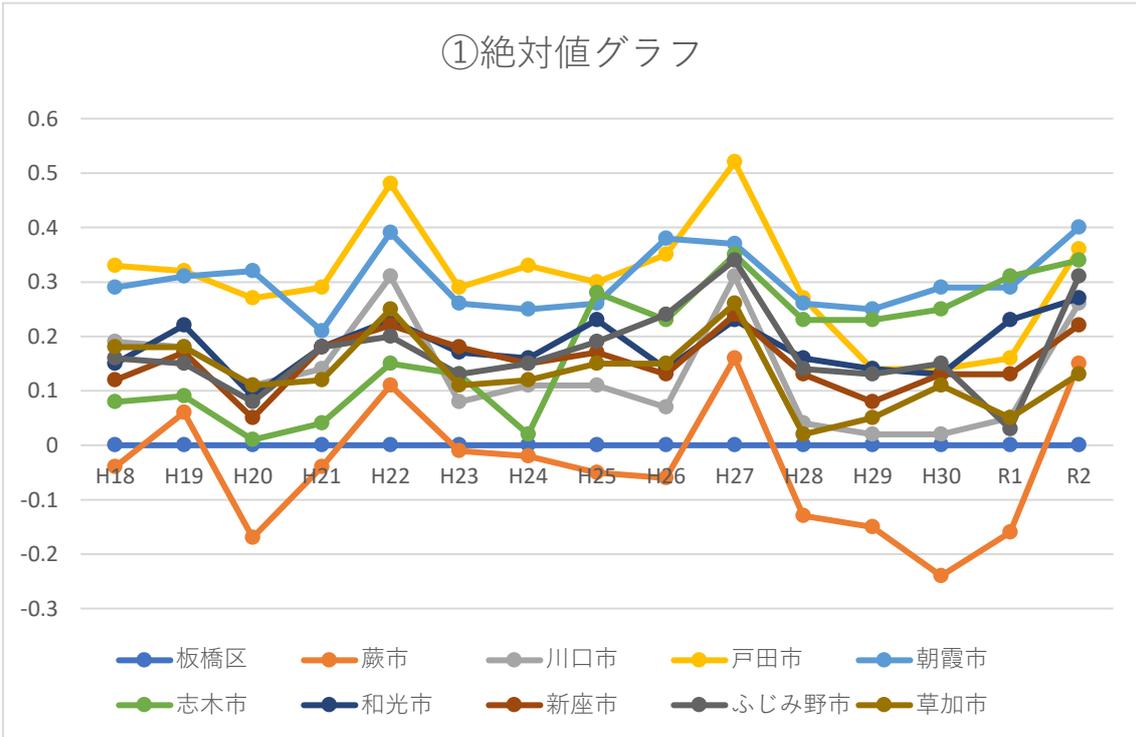


(図 2 : 各都市の統計データを基に作成)

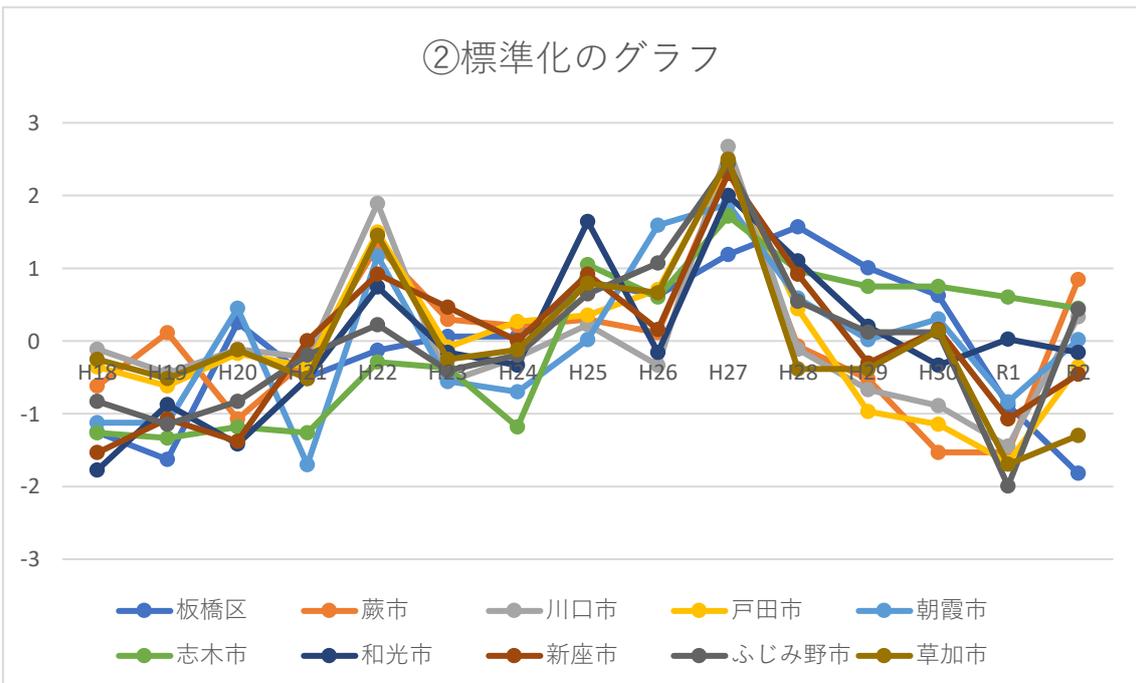
この図だけでは、似たような推移をしている都市の見分けがつきにくかったため他に
 ①各年の板橋区の合計特殊出生率との差を取った絶対値のグラフ、
 ②それぞれの都市の平均合計特殊出生率から各年の差を取り、標準化したグラフ、
 ③①の差を二乗し、その数値の合計値を求めたもの
 の 3 つを都市選定の要素とした。
 以下にそれぞれのグラフと結果を示す。

³ [東京都福祉保健局](https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/chosa_tokei/jinkodotaitokei/kushityosonbetsu.html)：から人口密度を計算

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/chosa_tokei/jinkodotaitokei/kushityosonbetsu.html



(図3：各都市の統計データを基に作成)



(図4：各都市の統計データを基に作成)

③差の二乗の合計値

	蕨市	川口市	戸田市	朝霞市	志木市	和光市	新座市	ふじみ野市	草加市
差の二乗(合計)	0.2251	0.4004	1.5419	1.4161	0.6898	0.5321	0.3904	0.5316	0.3273

(図5：各都市の統計データを基に作成)

これらの4つの要素により、板橋区の合計特殊出生率の推移に似ているとした都市は新座市、ふじみ野市であり、異なるとした都市は志木市、和光市である。それぞれの特徴として、新座市とふじみ野市は、板橋区と同様に10年ほどかけて上がってきた合計特殊出生率が過去5年間で一気に下降したという特徴を持っている。一方で、志木市と和光市は板橋区とは対照的に、10年かけて上がった合計特殊出生率を維持、または上昇している都市である。それぞれ、板橋区とは合計特殊出生率の数値自体は大幅に上回っているものの、直近の5年間のデータを比較した際の特徴を基に選定した。

2-3 分析手法

2-2で決定した4都市と板橋区の計5都市の様々な基礎統計を2015年の国税調査から調べ、その値を比較することで、都市ごとの特徴があるか考察する。その後、それぞれの都市の子育て支援や政策を調査し、総合的により魅力的な都市はどこなのか検討していく。最後に、今後板橋区に取り入れられる対策を検討していく。

3. 調査結果

初めに、2-2で選定した合計特殊出生率の推移が似ている新座市とふじみ野市、異なるとした志木市と和光市が他の基礎集計の面でも、似ていたり異なったりするのかを調査した。以下の表1は2015年の国勢調査を基に、各都市のホームページから都市の面積を調べ、人口密度や20-30代の女性の人口などを求めた表である。さらに、平均年齢や婚姻率を比較することで、子育て世代がどれくらい各都市にいるのかという指標になると考えたため、項目として設定した。

2015 年	人口密度	出生率	20-30 代女性	平均年齢	婚姻率
板橋区	17,440	1.19	78,350	45.15	48.34
新座市	7,117	1.43	18,668	44.70	59.24
ふじみ野市	7,580	1.53	12,498	44.70	59.20
志木市	8,030	1.54	8,767	44.51	59.40
和光市	7,321	1.42	11,915	40.79	56.57

(表 1 : 2015 年国勢調査より)

表 1 から、板橋区は他の都市に比べて平均年齢は高く、婚姻率は低いことが分かった。一方で、板橋区と合計特殊出生率の推移が似ているとした都市の新座市とふじみ野市は、些細な数値ではあるが、板橋区と同様に 4 都市の中では比較的平均年齢が高く、婚姻率も低いことが分かった。そこで、さらに情報を増やし、新たに特徴がないか調べた。それが以下の表 2 である。表 2 では、それぞれの項目を 1 つの幼稚園を利用する 20-30 代の女性の人数、1 つの保育園を利用する 20-30 代の女性の人数、1 つの産婦人科を利用する 20-30 代の女性の人数、1 つの小児科を利用する 20-30 代の女性の人数、1 つの公園を利用する 20-30 代の女性の人数と、1 つの施設に対してどれくらいの 20-30 代の女性が利用することができるのかという混雑状況を表す数値にした。これらは、各都市のデータベースを参考に作成した表である。

2015 年	幼稚園	保育園	産婦人科	小児科	公園
板橋区	2,304	338	6,027	719	197
新座市	1,697	301	9,334	933	415
ふじみ野市	1,250	481	6,249	543	266
志木市	1,252	244	8,767	877	438
和光市	2,383	271	11,915	1,083	477

(表2：各都市のデータベースより、1つの施設あたりの数値に変更)

表2より、板橋区の特徴として、育児施設である幼稚園や保育園を利用する20-30代の女性は比較的多くなっており、混雑状況がうかがえるが、産婦人科や小児科といった医療機関に関しては、他の都市と比較すると混雑していない。表1と同様に、板橋区と似ているとした都市2つと異なる2都市と比較していきたい。新座市とふじみ野市は、板橋区と同じく幼稚園や保育園の数が20-30代の女性に対して少ないということがわかる。さらに、ふじみ野市は板橋区と同様に産婦人科や小児科、公園の混雑状況も少なく、状況としては板橋区と似ていることがわかった。一方で、板橋区と合計特殊出生率の推移が異なるとした志木市と和光市は、幼稚園の数は当てはまらないものの、保育園は上記の3都市と比べて混雑していない結果となった。しかし、産婦人科や小児科といった医療機関、公園の数に関しては混雑している。

さらに、現代の日本では共働き世帯が半数以上を占めているため、待機児童数の観点や、金銭面での余裕という面で、参考として各都市の1LDKの家賃相場を調査した。待機児童数は板橋区のデータベースと埼玉県データベースに基づき表を作成した。家賃相場に関しては、4つの住宅情報サイト(LIFULL HOME'S⁴、SUUMO⁵、ホームメイト⁶、CHINTAI⁷)の1LDKの数値を平均したものである。これらの結果を表3にまとめている。

2015年	家賃相場	待機児童
板橋区	11.9	80
新座市	8.6	29
ふじみ野市	8.1	1
志木市	9.6	12
和光市	10.6	39

(表3：各都市のデータベースと上記の住宅情報サイトによる数値を加工し再作成)

⁴ LIFULL HOME'S : <https://www.homes.co.jp/>

⁵ SUUMO : <https://suumo.jp/kanto/>

⁶ ホームメイト : <https://www.homemate.co.jp/pr-saitama/>

⁷ CHINTAI : <https://www.chintai.net/>

表1から3より、子育てをする上での施設状況はふじみ野市が最も板橋区に近い結果となった。しかし、ふじみ野市との大きな違いとして婚姻率の低さと家賃相場の高さが目立った。家賃相場の高さを改善することは難しいため、板橋区は婚姻率の増加を目指す形が理想的である。また、板橋区と最も異なった都市は志木市だと考える。特に、子育てに重要な幼稚園や保育園の混雑状況が低いと考えられる点である。医療機関や公園の混雑状況は高いが、それ以上に子育て世代にとって子供を預けることができる施設というものの重要性を感じた。

4. 課題

板橋区の課題を挙げるため、ここで、各都市の子育て支援を挙げていく。板橋区は特別区ということもあり、子育て支援を積極的に行っている都市である。しかし、子育て世帯が区外の埼玉県に転出していることが課題となっている。そこで、他の都市に特徴的な支援があるのではないかと考えた。以下は、一部抜粋した支援を挙げていく。

・板橋区

出産費用の助成、ひとり親家庭への助成、中学3年生まで医療費助成、児童手当、児童扶養手当、認証保育所の増加、国公立・私立高校進学のための奨学金等、支援金の面での制度が多くなっている。さらに、板橋区は令和5年の4月1日から高校生まで医療費の支援が行われる。これからさらに、支援が手厚くなる予定だ。

・新座市

2018年から婚活支援事業を開始しており、埼玉県を通して行われている。また、3人以上子どもがいる家庭では、新座市多子世帯保育料軽減事業、3キュー子育てチケット、パパママ応援ショップといった多子世帯に向けた支援が多くなっている。これらの事業やサービスは埼玉県共通のものになっているため、県を挙げて1人当たりの出生数を上げる取り組みを行っていることがわかる。板橋区でも同様の支援制度はあるが、2人以上の世帯が対象になっているため、1人当たりの出産数はあまり多くならないのではないかと考えられる。また、2022年には20代の若者向けの婚活支援事業を開始し、モニターを集めていたことから今後さらなる婚姻率の維持・上昇を目標としていると思われる。

・ふじみ野市

ふじみ野市も新座市と同様に、埼玉県で行われている3キュー子育てチケット、パパママ応援ショップといった多子世帯に向けた支援が充実している。さらに、ふじみ野市では、2017年から市専用の子育てアプリを導入し、子育て行政サービスや支援施設を検索した

り、子どもが参加できるイベントを調べられたりするなど確実な情報を気軽に検索できるようになった。板橋区では、同様のアプリが2022年に登場するなど遅れをとっているが、今後はふじみ野市同様、気軽に施設を検索できるようになると考えられる。

・志木市

志木市では、他の市と同様に埼玉県の支援のほかに、出張子育てサポーター事業「子育て応援パートナー」というサービスを展開しており、出張、訪問相談や来所相談など無料でやっている。子育て応援パートナーと呼ばれる人が、相談を受けて必要なサービスを紹介したり、紹介した施設や市役所などに同行してくれたり子育てに対する不安を解消してくれるものである。板橋区では、なんでも相談室というサービスがあるが、電話対応のみのため、人口の規模もあり中々難しい状況である。

・和光市

和光市では、安心・安全な妊娠・出産・子育てを実現するために、わこう版ネウボラという事業を展開しており、フィンランド語で「アドバイスの場」という意味である。市民の不安や悩みを相談し、支える場所を作り、安心して出産・子育てを行えるように支援している。志木市と同じように母子保健ケアマネージャー又は子育て支援ケアマネージャーと呼ばれる人々を市内5か所に設置し、妊娠期から就学までの健康や子育ての相談等を行っている。

5. まとめ

調査結果や、課題で調べた子育て支援の事業から板橋区に参考になる支援がないか検討していきたい。

今回の研究では、板橋区と合計特殊出生率の推移が異なる都市には、特徴があった。特に、子育て支援という観点では気軽に子育ての不安や悩みを直接人に相談できることが強みであると感じた。最近では、核家族化が加速しており、なかなか現実で人に相談できる機会が少なくなっていると耳にする。昨年、私が子育て支援アプリを調査した際にも、些細な悩みや不安を相談するには適していると感じたが、専門家に質問したいことや地元の支援事業まで気軽に教えてくれるものではなかったと感じた。そのため、板橋区が2022年に作成したアプリが今後、情報の確実性という面で活性化していくと考えられる。そのため、板橋区は行政としてもさらにこのアプリの利便性を訴え、区民に訴求していくべきだと考える。

6. 参考文献

- ・ [板橋区人口ビジョン_2019.pdf](#) :

https://www.city.itabashi.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/007/138/attach_95782_1.pdf

- ・ [厚生労働省令和3年\(2021\)人口動態統計月報年計\(概数\)の概況](#) :

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai21/dl/gaikyouR3.pdf>

- ・ [東京都福祉保健局](#) :

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/chosa_tokei/jinkodotaitokei/kushityosonbetsu.html

- ・ [蕨市 各年次別人口統計](#) :

<https://www.city.warabi.saitama.jp/shisei/youkoso/toukei/nenji/index.html>

- ・ [川口市 人口の統計](#) :

<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01020/010/toukei/12/index.html>

- ・ [川口市 川口市統計書](#) :

https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01020/010/toukei/13/2778.html#h_idx_iw_flex_1_2

- ・ [戸田市情報ポータルサイト オープンデータ統計](#) :

<https://www.city.toda.saitama.jp/site/opendata/jinkou.html>

- ・ [戸田市の子ども・子育ての現状](#) :

https://www.city.toda.saitama.jp/uploaded/life/103205_205890_misc.pdf

- ・ [戸田市 まち・ひと・しごと創生総合戦略 第4章](#) :

<https://www.city.toda.saitama.jp/uploaded/attachment/44528.pdf>

- ・ [むさしのフロントあさか 人口統計](#) :

<https://www.city.asaka.lg.jp/life/4/30/240/>

- ・ [志木市 統計データ](#) :

<https://www.city.shiki.lg.jp/index.cfm/51,9068,136,html>

- ・ [和光市 ミニ統計](#) :

<http://www.city.wako.lg.jp/home/miryoku/profile/minitoukei.html>

- ・ [健康わこう21計画中間評価・見直し 第3部 データ編](#) :

<http://www.city.wako.lg.jp/var/rev0/0077/5699/2015410182352.pdf>

- ・ [和光市の子ども・子育て家庭を取り巻く現状 資料7](#) :

<http://www.city.wako.lg.jp/var/rev0/0030/8503/2013102193850.pdf>

- ・ [埼玉県総務部統計課「埼玉県町\(丁\)字別人口調査結果報告」\[2\]人口](#) :

<https://www.city.niiza.lg.jp/uploaded/attachment/50532.pdf>

- ・ [新座市 統計にいざ](#) :

<https://www.city.niiza.lg.jp/site/toukei/toukeiniiza.html>
・ [ふじみ野市 人口・統計](#) :

https://www.city.fujimino.saitama.jp/shinojoho/fujiminoshinoshokai/jinko_tokei/index.html
・ [草加市 草加市の統計](#) :

<https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1301/030/020/010/010/01.html>
・ [板橋区](#) :

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/>
・ [東京都医療機関案内サービスひまわり](#) :

<https://www.himawari.metro.tokyo.jp/qq13/qqport/tomintop/search/13119/10>
・ [埼玉県医療機能情報提供システム](#) :

<http://www.iryu-kensaku.jp/saitama/kensaku/KensakuIchiran.aspx?sy=m&cm=s>
・ [日本医師会 地域医療情報システム](#) :

<https://jmap.jp/cities/detail/city/11229>
・ [彩の国 埼玉県](#) :

<https://www.pref.saitama.lg.jp/index.html>
・ [市町村別保育所待機児童数（令和3年4月1日）](#) :

<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/20191/taiki2021.pdf>
・ [令和2年度第1回子ども・子育て会議_資料3](#) :

https://www.city.itabashi.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/029/181/4.pdf
・ [LIFULL HOME'S](#) :

<https://www.homes.co.jp/>
・ [SUUMO](#) :

<https://suumo.jp/kanto/>
・ [ホームメイト](#) :

<https://www.homemate.co.jp/pr-saitama/>
・ [CHINTAI](#) :

<https://www.chintai.net/>
・ [e-Stat 政府統計の総合窓口 平成27年国勢調査](#) :

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&tclass1=000001154387&tclass2=000001159627&tclass3val=0>